

# まちの ニュース

## 春の観光シーズンが幕開け・八幡平山開き

岩手県と秋田県にまたがる八幡平（1613<sup>㍎</sup>）の山開き式は4月26日、山頂レストハウスで行われました。

当日は春の穏やかな日が差す好天に恵まれ、両県の関係者など約100人が出席。観光客の安全などを願う神事に引き続いて、鹿角市と八幡平市の山岳会がピッケルを交換、テープカットともちまきで山開きを祝いました。



両市の山岳会代表によるピッケル交換を行い、シーズン中の無事を祈りました



山頂で万歳三唱する両県の登山者たち

恒例となった両県の市民や関係者による交流登山には、約30人が参加。登山者は、例年より少ないものの3〜4<sup>㍎</sup>ほど残る雪を踏みしめ、岩手山（2038<sup>㍎</sup>）などが姿を見せる雄大な光景を楽しみながら、八幡平の頂上を目指しました。頂上に着くと登山者全員で万歳を三唱し、両県の友好を深めました。

山頂レストハウスでは、市特産のニジマスの押しずし「清流ずし」と鹿角市特産の八幡平ポークの豚汁を振る舞いました。訪れた観光客は、晴れ渡る青空の下に広がる絶景とともに、両県の味覚を心行くまで味わいました。

八幡平さくらと残雪まつりは、4月26日から5月6日までの11日間、市内各会場で行われました。

このまつりは、5月の大型連休に市内で行われているさまざまなイベントを連携し、誘客につなげようで行われているもので今年で6回目。訪れた大勢の観光客は咲き誇るサクラの花と残雪の織り成す景色を楽しみました。

## 八幡平さくらと残雪まつりで市の魅力発信

5月3日には、本会場・桜松公園で不動の滝まつりを開催。日本の滝百選の一つに選ばれている不動の滝は、古くから山伏の修行の場として信仰を集め、この日も県内外から多数の観光客が参拝に訪れました。会場には、商工会などによる出店が軒を連ね、特設ステージでは、歌謡ショーなどの催しで訪れた観光客を楽しませました。



↑本会場不動の滝まつりは、大勢の観光客でにぎわいました。

←残雪を踏みしめ、展望台を目指す観光客（写真は八幡平見返り峠駐車場）

## 最先端ハイテク企業が安代地区に工場立地

有限会社ツカサプラント（盛岡市玉山区、伊藤修司社長）の工場立地調印式は5月2日、市役所で行われました。同社は、半導体など電子部品に用いるセラミック製品の製造・販売を手がけています。17年に安代地区から撤退した白石工業株式会社（東京都、白石伊喜夫社長）の工場跡地を取得し、新規雇用1人を含む従業員8人で6月から操業する予定。22年までに従業員18人規模に拡大する計画です。



調印後、握手する伊藤社長（写真中央）と関係者

## 通学・通院に便利なコミュニティバス発車



安代地区で運行を開始したコミュニティバス

安代地区コミュニティバスの運行開始式は4月1日、始発となる浄法寺線の発車に先立ち、JR荒屋新町駅前行われました。開始式で田村正彦市長は、「多くの皆さんに利用され、市全体に広がることを願います」とあいさつしました。バスは安代地区で7路線を運行。運賃は地区内の乗車1回が100円で、中学生以下は無料です。通院利用者には、復路無料券を配布しています。

市スポーツ少年団の結団式は4月19日、市総合運動公園体育館で団員や関係者など約300人が参加して行われました。

式典では、活動を通じて健康な体と心を養い、目標に向けて努力することなどを誓う、日本スポーツ少年団綱領を全員で斉唱。少年団を代表して市剣道スポーツ少年団へ認定証を交付しました。

参加者はそれぞれの目標に向けて意欲を高めていました。

## スポーツを通じて心身の成長を誓う結団式



それぞれの少年団へ認定証を交付しました



テープカットで開通を祝いました

八幡平に春の訪れを告げる八幡平アスピーテライン（10.6km）の開通式は4月18日、同ゲート前で行われました。当日はあいにくの雨模様ながら、例年より1週間ほど早い開通を待ちわびる観光客が遠くは静岡県など県内外から多数詰め掛けました。同ラインが秋田県側と結ばれ、全面開通してからは最も早い開通です。凍結の恐れがあるため、当分の間は夜間通行止めになります。

## 雪の回廊が姿を見せ、八幡平に春を告げる



## 地域の安全を守る市消防団員への辞令交付

市民の生命と財産を守る、市消防団の辞令交付式は4月23日、市役所大会議室で行われました。

昇任者33人に加えて、新入団員14人に辞令を交付しました。渡辺東六団長は、「市民の安全を守るため、それぞれの役割のもとで消防活動に力を発揮してください」と訓示しました。

団員たちは、地域の安全を自分たちの手で守ろうと、決意を新たにしていました。



渡辺団長から新入団員らへ辞令を交付

## 立派な安比塗職人を目指して腕を磨きます



安比塗の技法を学ぼうと意欲を高める研修生

安代漆工技術研究センターの研修生入所式は4月9日、安代総合支所で行われました。新たな研修生となったのは（写真左から）元会社員で福島県出身の鈴木慎也さん、金沢学院大学で漆工芸を学んだ盛岡市出身の佐々木知仁（はな）さんの2人です。同センターは全国でも珍しい漆器職人の養成機関で、授業料は無料。これまでに43人が研修過程を終了し、県内外で活躍しています。

西根病院のお花見会は4月24日、同病院談話室で行われました。

嶋信院長が「お花と食事をゆつくり楽しんでください」とあいさつし、花見会の始まりです。

サクラの花などで華やかに飾り付けられた会場で、特別に用意されたお花見弁当風の病院食に舌鼓。また、病院の職員がこの日のために練習した踊りや歌を披露し、参加者を楽しませました。



華やかに歌や踊りを披露する職員

## 春の行楽気分を満喫する西根病院お花見会



けがをした場合の固定法を学ぶ参加者

県民の森・森林ふれあい学習館フォレストアイは4月27日、野山で役立つ簡単救急法講座を開催しました。

県民の森サポーターの畠山英夫さんを講師に招き、市民など10人が参加。骨折やねんざが疑われる場合のタオルや手ぬぐいを使った固定法、ロープを使ってけが人を背負う方法を学びました。

参加者は、いざというときに備え、真剣な表情で取り組んでいました。

## 野外のけがに備え応急処置法を学ぶ講習会

## 八幡平市の玄関口・道の駅にしね新装開店

道の駅にしね・生産物直売所は4月20日、昨年度に増築したレストラン棟を加えて新装オープンしました。

記念セレモニーで田村正彦市長は「この道の駅は、国立公園を抱える市の南の玄関口。新装を機に多くの人に訪れて

ほしい」とあいさつしました。

オープン前から買い物客が長蛇の列をつくり、ハウレンソウなど新鮮な野菜などを求めて店内は大にぎわい。

先着700人に記念品を呈したほか、豪華商品の当たる抽選会が人気を集めました。



↑拡張した直売所の売り場は新鮮な野菜などを求める買い物客で大にぎわい

→新設されたレストラン棟也大勢の人であふれました



国内一の品質と生産量を誇る市のリンドウ振興に大きな力となる、雪冷房リンドウ培養育苗施設の落成記念式典は4月11日、同施設で行われました。

市や県、リンドウ生産者など約100人が出席しました。テープカットで落成を祝い、出席者は設備についての説明を受けながら、施設を見学しました。

この施設は、より良い市独自の新品種を開発し、安定的に種苗を供給することを目的とするものです。培養研究棟、



テープカットで落成を祝いました

冬季間に雪氷貯蔵庫へ約800トの雪を貯蔵し、その雪解け水を利用して培養室内を冷房することがこの施設の大きな特徴です。翌年1月までこの雪解け水を利用することが可能で、運営費を抑えることに加えて、温室効果ガスの削減にも寄与します。

3つの培養室を品種に合わせてそれぞれ10度、15度、20度に保つことで、親株の増産、新品種の開発促進も期待されています。

## 雪をリンドウ振興に活用する培養施設完成



雪解け水で冷房される培養室の内部

雪氷貯蔵庫、育苗ハウスで構成され、述べ床面積は合わせて855平方メートル。総事業費は1億8244万円です。